

これからの社会に求められる メディア・リテラシー教育とは



日本大学
文理学部 教育学科 中橋 雄 教授

大人も子どもも1人1台情報端末が普及し、AI技術の進展により多様な情報が飛び交う現代社会で、メディア・リテラシーの育成強化が緊急の課題となっています。メディア・リテラシーとは、どのような力なのか。学校現場では、どのように学習を進めていくべきか。メディア・リテラシーとその教育に関する研究に取り組む日本大学の中橋雄教授にお話を伺いました。



望ましい社会に していくために、 メディア・リテラシーが必要

— メディア・リテラシーとは、どのような能力のことをいいますか？

「メディアの意味と特性を理解したうえで、受け手として情報を読み解いたり、送り手として情報を表現・発信したりできる力」のことをいいます。また、メディアの在り方を考えて行動していくことができる能力だと考えています。

— メディア、リテラシーの言葉の意味をそれぞれ教えてください。

メディアは、情報を伝える乗り物・媒体・手段のことをいいます。

一方、リテラシーは、元々読み書き能力といわれていましたが、社会で生きていくために必要な能力として、計算の能力やコンピューターを使う能力などもリテラシーのうちに含まれるようになりました。つまり、リテラシーとは、現代社会を生きるために必要な素養で、社会を開発していく力だと捉えるとよいと思います。望ましい社会にしていくためには、メディア・リテラシーが必要だと考えています。

— 情報活用能力や情報モラルとの違いを教えてください。

情報活用能力と情報モラルは、文部科学省が公的な文書で使用する言葉であり、それぞれに定義があります。例えば情報活用能力は、情報活用の実践力や情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度などが含まれています。参画する態度には情報モラルも含まれており、情報社会への参画は、社会を開発していくために必要なメディア・リテラシーと深く関係しています。しかしながら、情報活用能力の力点とメディア・リテラシーの力点は異なるものです。両方とも大事な能力なので分けて考え、その力を育成していく必要がありますが、それが混ざってどちらかが抜け落ちてしまうと問題があると考えています。

具体的に力点の置かれ方がどう異なるかというと、情報活用能力は、情報や情報技術を適切かつ効果的に利用できることに力点が置かれています。効率よく情報検索したり、情報の信憑性を判断したり、人を傷つける表現にならないように配慮したりすることなどが重視されます。

一方、メディア・リテラシーは、クリティカルシンキング（批判的思考力）が大事だといわれますが、社会的・文化的・政治的・経済的・技術的な文脈を踏まえて

意味を解釈したり、表現・発信したりすることが重視されます。メディアは一面が切り取られて伝えられたものなので、誰が・何のために・どのように表現したのか、送り手の意図や工夫を読み解き、別の見方もできるのではないかと考える必要があります。また、表現・発信する側の立場としては、伝えたいことが魅力的に伝わるように、相手や目的に応じてうまく一面を切り取る使い方を身に付ける必要があります。このように力点の置き方に違いがあるといえます。

— メディア・リテラシーというと、情報の信憑性を見極める力だけを指すと思っている方も多いと思います。

ただ嘘か本当か判断することをメディア・リテラシーというのは、非常に狭い範囲の見方だと思っています。メディア・リテラシーの一部として、真偽を判断することも必要になりますが、それだけがメディア・リテラシーではありません。もっと広い多様な能力の組み合わせによって成り立っている能力なので、幅広く捉えていく必要があると考えています。

— 次期学習指導要領に向けて、中央教育審議会でメディア・リテラシーの育成強化が検討課題として挙げられてい

これからの社会に求められる メディア・リテラシー教育とは



ます。なぜ今メディア・リテラシーの育成が必要なのでしょうか？

これまで文部科学省や中央教育審議会で議論されてこなかったわけではないと思いますが、これまで使ってきた情報活用能力という言葉だけでは、足りない部分があるのだと思います。これから時代に必要なメディア・リテラシーについて捉え直し、取り入れていくことが大事だと考えられているのではないでしょうか。

学校現場でどのように メディア・リテラシーを 育成していく？

一 学校現場におけるメディア・リテラシー教育の課題を教えてください。

現在、学習指導要領にメディア・リテラシーという用語自体は明示されていないこともあり、学校現場でその必要性が十分に認識されていない場合があります。

一方で、メディア・リテラシーが大事だと思っている教員は存在していて、学習者のメディア・リテラシーが育まれる授業に取り組んでいます。問題は、その取り組みに差が出ていることだと思います。

ます。そういう点では、経験が不足している教員にどう力を付けてもらうかが1つの課題だと思います。

一 児童・生徒のメディア・リテラシーを育成するために、今後どのような授業や学習が求められますか？

これまでにもメディア・リテラシーを育成するさまざまな方法が考えられてきました。

例えば、新聞の比べ読みです。同じニュースでも新聞社によって扱いが異なることが見えてくると、出来事をただ伝えているわけではなく、価値観が含まれていたり、ものの見方を提示しているものがあったりすることが分かります。意図を持って表現されているというメディアの特性について学ぶことが、授業の主たる目的になると思います。

他のやり方としては、実際に自分でメディアを制作するというものです。今の学校現場でも、国語科や社会科で壁新聞・ポスター・パンフレットを作るという活動はありますが、教科の学習が主たる目的であることが多いです。しかし、こうした活動を工夫すれば、メディアの送り手として自分が意図して表現するという経

験を通じて、情報を取捨選択する重要性が分かってきます。また、自分が触れているメディアも、そぎ落とされたものとして読み解く必要があると分かってきます。そして、「意図を持ってメディアを構成する送り手の立場」と「送り手の意図を読み解く必要がある受け手の立場」を往復させることで、メディア・リテラシーを育むことができます。

ここで留意すべき点は、何のために、誰に伝えるのかという相手意識・目的意識を持つことです。例えば、地域の人を学校に呼び込むことを目的としたパンフレットを作るなら、それに応じた表現を複数考えて、どれが一番伝わるのか検討する必要があります。単に正しい言葉遣いにするという話ではなくて、目的を達成するために、相手にどのような言葉が一番届くのか吟味することが、メディア・リテラシーを高めていくために必要になると思います。

もしくは、メディアの在り方にについて深く考え、議論を通じて学ぶという方法もあります。リテラシーは人それぞれで異なり、知識や価値観によって読み解くときの判断の仕方も変わってきます。また、表現の仕方で違いが出てくるかもしれません。そうした差がある中で、自分と他の人は



メディア・リテラシーを育成する授業の例

活動内容

新聞の比べ読み

メディアの制作（壁新聞・ポスター）

メディアの在り方について議論

児童・生徒へ期待する気付き

- 同じニュースでも新聞社によって扱いが異なる
- メディアは、意図を持って表現されている特性がある
- 何かを伝えるためには、何かをそぎ落とす必要がある
- 自分が触れているメディアもそぎ落とされたものとして読み解く必要がある
- メディアの捉え方・表現力は、人それぞれである

違うと知ることは大事なことです。相手に何かを伝えるときは、相手に伝わる言葉でなければいけません。相手に感動してもらいたいと思うならば、相手が感動することを提示する必要があります。あるメディアに対して、「自分はこう思う」「他の人はこう思う」ということを出し合って、対話して学んでいくという授業が1つ考えられると思います。

— 教員のメディア・リテラシーの育成で、必要なことは何ですか？

これまで、教員もメディアに対する教育を十分に受けていませんでした。一方で、メディアというのは、日常生活の中に溶け込んでずっと触れているものだと思うので、そこを分析的に見ていくという視点を得ることが必要です。そのときに力になってくれるのは、やはり教材だと思います。授業で何か教えるときに、教師が利用できる教材が準備されていれば、それを使って教える中で「こういうことがポイントなのか」と理解できますし、それが直接的に教育の効果を生み出していくということにつながります。「何か本を読んで学びましょう」「研修を受けて学びましょう」だけではなくて、教材を活用する中で学ぶことができると思います。

子どもと一緒に 楽しみながら 学べる教材が大事

— 今後どのような教材が求められますか？

子どもと一緒に楽しみながら学べる教材が大事になってくると思います。特に、身の回りのメディアに関する事象をテーマにすることが大事です。メディア・リテラシーは実践的な能力です。何かを判断するような場面がたくさんあって、

「こうじゃないかな」と考えて、そう考えた理由を話し合いながら、メディア・リテラシーを身に付けることができる。そして、学ばなければ気付けないようなメディアの特性について、知識を提供してくれる。そんな教材が重要になると思います。

— 今年度から中橋先生の監修で教育クラウドサービス〈edu-cube〉にメディア・リテラシー育成アプリ〈ふしぎの世界のリテディア〉が追加されました。どのような想いで開発に携わりましたか？

メディアについて学ぶことの楽しさが伝わるように、楽しみながら学ぶことができるゲームの要素を取り入れた教材を目指しました。ただし、単に娛樂要素を取り入れるということではなく、しっかりと学習の内容が含まれるようなものになるように検討を重ねてきました。子どもたちには、嘘か本当かを見抜くような力というよりも、気付かぬうちに生じる抑圧状況、対立、混乱、争いを回避し、建設的な対話や精神的な豊かさを生み出すことができる力を身に付けてほしいです。作品を生み出したり、読み解いたり、楽しんだりする力を伸ばしていくような教材になるとよいと思っています。

メディアについて 学ぶことは すごく楽しい

— キューブランドの読者に向けて、メッセージをお願いします。

メディアについて学ぶ理由として、「危険から身を守るために必要だ」というように、危機感を煽るような言い方がされることはありません。大事だけれど重たい話だなと思われている方もいらっしゃるかもしれません。しかし、メディアについて学ぶことは、すごく楽しいことです。自分が工夫した表現で人とうまく気持ちを伝え合えたり、相手が喜んでくれたりしたらうれしいですよね。あるいは何か興味深い知的刺激を自分が受け取ったときに、それを他の人に伝えるのも楽しいものです。「楽しい」はキーワードだと思っています。なぜ人は学ぶのか……楽しいからではないでしょうか。相手に伝えたいことを伝えようと取捨選択していくプロセス自体は、非常にクリエイティブで面白いですよ。そういうところにこだわって、メディア・リテラシーを育む教育実践に取り組んでもらいたいと思います。

プラスワン!

メディア・リテラシーと教科・領域の関わり

メディア・リテラシーは、あらゆる教科・領域の学習活動で横断的に育成できます。

メディア・リテラシーの要素

- メディアの役割・仕組みの理解

- 表現・読み解き・活用

- モラル

- 課題解決・探究

メディア・リテラシーを身に付ける各教科での学習内容

- | | |
|----|---|
| 社会 | メディアの影響力 世論と政治参加 情報社会
社会システムとしてのメディアの仕組み |
|----|---|

- | | |
|----|------------|
| 国語 | 情報の表現と読み解き |
| 図工 | デザイン・レイアウト |
| 音楽 | 音楽表現 |

- | | |
|----|--------------------|
| 算数 | グラフの読み解きと表現 |
| 体育 | 身体表現・
ボディーランゲージ |

- | | |
|----|-------------------|
| 道徳 | 情報表現・発信者に求められるモラル |
|----|-------------------|

- | | |
|----|----------------------------------|
| 総合 | 情報を読み解き、統合的に理解して表現することによる課題解決・提案 |
|----|----------------------------------|

⇒ 身に付けたメディア・リテラシーは、学習全体の基盤となり、各教科・領域での学びに応用されます。

これからの社会に求められる
メディア・リテラシー教育とは



Profile

プロフィール

日本大学
文理学部 教育学科

中橋 雄 教授

情報技術、メディアをコミュニケーションの観点から捉え、メディア表現力の育成方法など現代社会において重要性が高まっているメディア・リテラシーに関する研究を専門としている。

教育クラウドサービス edu-cube アプリ紹介

小学校 中学年～高学年向け 教材



メディア・リテラシー ふしぎの世界のリテディア

監修 中橋 雄 教授



メディア・リテラシー育成アプリ「ふしぎの世界のリテディア」では、児童自身が作成したアバターが物語の主人公となり、自分の端末でストーリーを進めながらメディア・リテラシーを楽しく身に付けることができます。

ストーリーを 自分ごととして 捉えて学ぶ

ストーリーの題材には、テレビや新聞などの身近なメディアが用意されており、学習内容を自分ごととして捉えることができます。



受け手の立場
と送り手の立場
を疑似体験
できます。

短時間で メディア・リテラシーを 身に付ける!

1つの学習が5分程度で完了するため、朝学習や休み時間など、短い時間で自主学習を進めることができます。



児童が気付けない部分は、授業で取り扱い、議論して、理解を深めていきましょう。

学習課題ラインアップ

メディア・リテラシーとは

メディア・リテラシーとは何かを学び、身の回りにあるメディアを認識する

アップとルーズの特徴

アップ・ルーズで撮影した場合の効果や撮影方法を学ぶ

動画の撮影方法や構成

伝えたい内容に合った動画の撮影方法や構成、音楽の付け方などを学ぶ

生成AIとの関わり方

生成AIの特徴や、効果的な使い方、注意点について学ぶ

※リリース予定

今後も新たな学習課題が順次追加されます。